

蜂起・昂揚篇

八月一日午後九時五〇分頃約五百名の群衆が東田町巡査派出所につめかけ「生きているのに何故早く運ばなかったか」「アニコでも人間だぞ」等とののしり、午後一〇時五分頃一部群衆は同派出所に投石し、窓ガラス六枚を破壊し、また派出所内に入り巡査を殴打し、午後一〇時四〇分頃には群衆は約千名に達し、付近の交通は麻痺状態となった。（資料②）



こわされて火をつけられた東田町 派出所一二月午前十一時四十分写す

昭和四年四月一日(11日) 12時15分
東京市警視庁 第四分局

【二日午前0時】機動隊一ヶ小隊が増援されたが、群衆はこの頃から次第に兇暴性を発揮し、東田町派出所めがけて玉子大の石等を投げはじめた。(資料①)

警官の出動に刺激された群衆は刻々数を増し、約千人にふくれ上がり、霞町交差点東約五〇メートルの地下鉄動物園駅付近で通りかかった布施市新喜多町三六四、布施交通のトヨベックラウン(大5い4419) 山田五郎運転(三〇) 〓に襲いかかり、山田運転手が乗客と一緒に逃げだしたあと車をひっくり返した。

群衆の一人は流れ出たガソリンにタバコの火を投げて放火。自動車がパッと燃え上ると群衆は狂喜してカン声あげるしまつ。西成消防署から消防車三台がかけつけ、火はまもなく消しとめたがタクシーは全焼(読売二日朝刊)

【同一時】コンクリート二階建の派出所目掛けてコブシ大の石が群衆の中から投げはじめられた。ガチャンガチャンと窓ガラスが飛び散る。派出所の表を警戒している警官のヘルメットにも当たる。それでも警官側はひどく低姿勢。「税金ドロボー」と毒づかれ、胸をこづかれた機動隊員の一人が、たまりかねたのか、逃げる相手を追いかけたところ、たちまち十数人に取りこまれ、なぐる、こづくの乱暴を受けた。警官隊はこれを救い出すのがやっとのありさま。

派出所二階から「交通事故の関係者は、本署で調べています。だから派出所や警察官に乱暴しないよう」とのマイクの声も「ウォー」の群衆の叫びに妨げられてさっぱり行きわたらない。

【同一時二〇分】野村西成署刑事課長が派出所前でイスに登り、釈明しかけたが、二つ三つ石をあてられ、急いで派出所の中へ引っこんだ。

【同一時半】応援の機動隊を乗せた大型トラック二台がかけつけたが、本隊のいる事故現場付近に近よれないため、現場から約一〇〇メートル離れた同区東入船町に着いた。それをみた群衆は、わっとトラックに押し寄せてラムネビンなどを投げながら囲んだ。

機動隊は大きなネットをトラックのまわりに張ってこれを防ぐ一方、催涙性のガスを放って、群衆がひるむスキに囲いを破って東田町派出所に集まった。

しかし、群衆は、これを追って、さらに派出所を取りまき、ネットを奪って火をつけた。その後、警察官と群衆は押し合いを続け、投石のため近所の店のガラス戸は各所でメチャメチャにこわされた。

【同一時二時】派出所のヒサシにも放火されイスや机が燃えたため、西成消防署から消防車四台、天王寺消防署から救急車が急行した。いずれも南海電車阪堺線の踏切を越えたトタンに群衆からはげしい投石をあびた。このため消防車は四台ともフロントガラスをたたき破られ、危険となったので、消火作業を断念、サイレンを鳴らして南の今池地区に脱出した。

この投石のため、西成消防署永野豊消防士（三一）は頭にコブシ大の石を受けて一ヶ月の重傷を負ったほか……。派出所の火は、間もなく警官が消し止めた。（以上朝日二日朝刊）

【同一時四〇分】何物かによって派出所入口前にせ屋の手押し車が引き込まれ、これに木片、紙屑等が投げ込まれて炎上しており、さらに派出所入口付近に置いてあった外勤勤務用自転車一台が約半分所内に押し込まれて同様炎上、警察官は北側横の木戸から全員脱出、午前二時五五分頃本署に帰着した。（資料①）

——このため同派出所は火の海となり、派出所内にいた近藤西成署防犯課長ら警官数人は拳銃を威かく発射しながら派出所を脱出した。（朝日二日朝刊）

【同一時三時】カラになった派出所の前にはヘルメット姿の機動隊約三十人が警戒、群衆と対立している。（朝日二日朝刊）

本署前路上に集った群衆は約七百〇八百名となり、東田町派出所から移動してきたと思われる者約三百名が署南側路上に集結しど声とともに庁舎に向って投石をはじめさらに署内に乱入をはかる等の動きがあり、このため同一時一〇分及び同三〇分頃にガス筒四発を投てきしこれを阻止した。

（資料①）

ドヤ街住民西成署襲う

【同一時一五分】西成署前を出発しようとしたバトカー一台を暗やみからとびだした群衆が襲撃して窓ガラスをたたきこわし、車をひっくり返して火を放ち、一瞬同署の前は真っ赤に染まった。狂喜した群衆は物かげから石、レンガ、セメントのかたまり、ビンなどをさかんに投げつけた。乗務員は西成署へ逃げこんだ。つづいて護送車（注一）をも横倒しにし流れ出たガソリンに放火した。

燃えつづけたバトカーはクラクションの接点が焼き切れたため警笛が高く悲しげに鳴りつづけていた。西成署には機動隊員約百人がとじこもったが防戦に手一杯。同署正面のガラスは全部わられ、警官隊はドアや窓にタタミをたてかけて同署を守った。暴徒は半裸、ステテコ、アロハシャツ姿でゆう

ゆうと同署の玄関に近づき石やレンガを署内めがけて投げこみ……（読売二日朝刊）

〔注一〕府警鑑識車の誤り——編者

【同四時】署長室の窓ガラスもたたき破り火をつけた古タイヤを投げこんだが、火はすぐ消しとめた。警官隊はときおり正面玄関や裏門から群衆の中へ突撃するが暴徒はそのたびに投石しながら路地やものかげにかくれ、警官隊が署内に引きあげると玄関前までのりだすありさま。警官隊は暴徒に西成署へとじこめられた格好だ。

西成署前のパトカー・護送車（注一）焼き打ちを取材中の本社（読売）足達秋夫写真部員（二五）は暴徒五・六人に取り囲まれて袋だたきにあっただうえフィルムを抜かれた。

【同五時】それまで西成署にとじこもり暴徒の投石を防ぐ一方だった機動隊、特別機動隊員四百人、それに西成署員二百人は府警本部からとどいた防石タテを使っていつせいに出勤、同署前にたむろする浮浪者を押し返し、抵抗する者を容しやなく逮捕した。機動隊は「投石したらすぐ逮捕する」と携帯マイクで放送しながら同署前のあき地と道路上の群衆を三方に排除、約五〇メートル東の南海電鉄今池町ホームにいるヤジ馬を追い出した。（以上 読売二日朝刊）

大阪府警機動隊四個中隊が増援、総勢六百人の警官が実力行使して、夜明けとともにやっと騒ぎはおさまった。

同五時半、消防車がきて余じんを消し、署員が残がいを裏庭に運んで路上を整理したが警察のパトカーが焼きはらわれた事件はかつてないことだけにいたいたしい光景、また事件発生の現場となった

東田町派出所は目もあてられないムザンなありさま（以上 朝日二日夕刊）

☆警察側損害

。パトロールカー焼失 一台

。鑑識車焼失 一台

。東田町巡査派出所 半焼

。西成署窓ガラス 一四〇枚

。自転車 五台

☆民間側

。乗用車焼失 一台

☆負傷者 一四〇名

。警察官一二一名（うち入院五）

。消防隊員一〇名、一般九名

☆逮捕者 二九名

朝刊奪い合い

ドヤ街界わいはこの朝新聞が飛ぶように売れた。直接事件に加わったもの、遠まきに見物していた

もの、なにも知らなかったもの、みんなが異常な興奮につつまれ、区内の新聞スタンドや販売店には早朝からズラリと人の列。(読売二日朝刊)

【九時】府警本部は警備部長室に「西成事件捜査本部」を、西成署に「現地本部」を設置。

【八月二日】西成の暴動は一日夜に引き続き午後四時ごろから大阪府警機動隊など警官千四百人が固める西成署を包囲し、午後七時には三千人となった。西成署に通ずる四つの道路にむらがって投石、路上でたき火し、午後一時四〇分ごろにはあいっいで付近を走っていた自動車二台をとめ火を放ち、浪速署水崎町派出所も焼きはらい、同霞町派出所をメチャメチャに破壊、さらに前夜焼き打ちした西成署東田町派出所に再び放火して丸焼けとした。このあと日本刀や猟銃を持った暴力団と対立するに至って西成一帯はふたたび完全な無警察地帯となった。(読売三日朝刊)

【午後六時】千五百人余りが西成署周辺に集って、口々に「税金ドロボー」「ポリ公帰れ」などとのしった。(読売三日朝刊)

府警本部は市内全署から動員した特別機動隊、近畿管区警察学校生徒一個中隊を補強、計千四百人と私服警官三百人を要点配置。警備本部を西成署に移す。

【同七時半】暴徒の主力と見られる約三百人は一斉に南海電鉄阪堺線今池駅付近の堤(西成署の東約五〇メートル)にかけのぼり、

【同八時一五分】カン声をあげながら同駅を出たばかりの我孫子発恵美須町行電車―小川進運転士(三二)―目がけて投石した。乗客は駅にのがれて無事だったが、電車は運転台のガラス三枚がこっばみじん。四五分間立ち往生、同線の恵美須町―今池間は運転を中止した。

機動隊がこの暴徒を追うと、こんどは西成署北方五〇メートルにあるあき地に逃げのび、ここで【九時四〇分】ごろから激しい投石がはじまった。……投石は約三〇分続いたが、このとき深追いた警官隊の後ろから旅館にひそんでいた暴徒が襲いかかってハサミ打ちしたため警官隊はいったん退却、【一〇時五〇分】前夜に続いて催涙弾をうちこんだ。これで暴徒は退却したが、いっそう狂暴化し釜ヶ崎の入り口(同区東入船町)でたまたま通りかかった自家用車(水色トヨベツト大5せ15840)に襲いかかった。運転手を引きずりおろし、十数人がかりで旧住吉街道を西成署の北方三〇メートルまで運び、ここでエンジンに火を放った。車は真赤な火をふいて燃えあがり、暴徒はこれを機動隊目がけて突きはなした。機動隊は消火器で消火にあたったが、ここでも暴徒を追いかけた機動隊が孤立、袋だたきのピンチに立たされた。これを契機に警官隊は猛然と暴徒に向かい、カン声とともに暴徒に突撃、十四人を逮捕した。(読売三日朝刊)

暴力団とも乱闘

―日本刀猟銃に投石で応戦

【同八時半】霞町交差点付近に集結した約千人の群衆の中に暴力団と見られる約五十人がこん棒、日本刀、猟銃を持って群衆の中におどろき込み、片っぱしから殴りつけ、あるいはきりつけて通行人はショウギ倒しとなり負傷者多数が出た。……暴力団と見られる武装した一隊は南から道路をいっばいにひろがってやってきて同交差点付近で一斉に群衆におどろきかけた。

群衆はサンを乱してにげまどつたが一部は大阪環状線天王寺湊間の高架付近によじのぼり石をなげて応戦、暴力団ヤジ馬の間で大乱闘をくり返した。

府警機動隊は西成署防備のため全員が同署周辺にクギづけとなっていたためこの事態に対処できず乱闘は約一時間の間に数回くりかえされ、【午後一〇時】過ぎ暴力団と見られる方に約二百人、群衆側約千人が三日午前一時すぎまで投石合戦を続けた。(読売三朝刊)

【午前〇時】国鉄環状線西九条発天王寺行き電車も霞町ガード付近で投石にあい、先頭車の窓ガラス三枚がこわれた。群衆約二百人がジャンジャン横丁をまたぐ市電動物園前停留所のガード下に押し寄せ、市電最終電車二台に投石してガラス二枚をメチャメチャにこわし運転手がガラスの破片で軽傷を負った。(朝日二日朝刊)

警備本部は府下各署からも六個中隊(六百人)を増強、浪速署、西成署に四個中隊を、残りを鎮圧に当らせる。

【同〇時二〇分】催涙弾投げ込みに憤激した暴徒の別動隊数十人は西成署から北約三〇〇メートル離れた浪速署水崎町派出所へ押しかけガソリンをしみこませた布に火をつけ投げ込んで放火、同派出所を全焼させたうえ東隣の中山太陽堂の倉庫の一部を焼いた。南消防署からポンプ車三台が暴徒にじやまされるのをおそれサイレンを鳴らさずにかけつけたが、暴徒にさえぎられ二台は引きかえし、残った一台も暴徒に火を放たれて炎をあげながら逃げかえった。同派出所に勤務していた同署松山定雄巡査(三六)ら四人は危険を察して本署へのがれた。

燃えあがる炎を見て暴徒はたちまち千人にふくれあがってカン声をあげた。さらに他の別動隊約二

百人はジャンジャン横丁同署霞町派出所へ押しかけ、投石して同派出所をめちゃくちゃにこわした。立ち番していた浪速、西成署員十三人は押しかける暴徒をかきわけ、市電霞町車庫に脱出した。

【同〇時半】府警本部はじめて警棒の使用に踏み切る。

――調子づいて石を投げ続ける暴徒の群れを機動隊は西成署前約三〇メートルまで引きつけ、これまで使わなかった警棒を振るって突撃、逃げ場を失って道路にすわりこんだ暴徒を一人一人に五、六人がとびかかって、とくにマークしていた先鋭分子、いずれも一八歳と一九歳の少年三人を捕えた。

【同一時】暴徒の一部は一日夜焼かれた西成署東田町派出所を襲い火をつけはじめた。左隣の津郷新炭店の倉庫の板をはがしはじめワッショイ、ワッショイとかけ声をかけ燃えさかる派出所内にどんどん投げこんだ。……同派出所は焼けのこっていた窓のワッショイまで燃え切った。白いヘルメットの警官隊は北へ約五〇メートル離れた国鉄関西線ガード上に並んで見守るばかり。

一時すぎ、同派出所の火を群衆の中にいた地元ヤクザ数人がバケツで消しはじめた。これをみた暴徒がヤクザを袋だたきにしたため地元暴力団数組約百人がたすけにかけつけ日本刀や六尺金棒を振り回して大あばれ猟銃弾数発を逃げる群衆にぶっ放した。このため群衆のなかの西成区山王町二の二一、会社員橋田幸夫さん(四五)は左モモを日本刀できられ一ヶ月の重傷を負うなど女を含めた数人が日本刀できりつけられ、約三十人が野球のバットや金棒などで殴られて負傷、近くの佐藤医院などで手当てをうけた。

警官隊が出動、暴力団五人を逮捕したがすぐひきあげたため付近は完全に無法地帯となり、釜ヶ崎の日雇い夫を中心とする暴徒と旧飛田新地を根城の暴力団と警官隊が三つどもえとなり血なまぐさい

対立は当分続きそうな様相をみせている。(以上 読売三朝刊)

山本府警本部長異例の深夜記者会見。

【同一時二五分】群衆約千名が国鉄関西線の線路上に座り込みを行なった。(資料①)

【同三時】東田町派出所一帯にかけて日本刀や猟銃をもった暴力団数十人と暴徒約五百人が対立、互いに投石などして乱闘の気配が濃くなったとの情報が警備本部にはいったので、万一に備えて装甲車二台を用意するとともに三時二〇分府警機動隊平松副隊長を総指揮とする三個中隊を現場に急行させた。機動隊のうち百人は防弾チョッキをつけている。(読売三朝刊)

【同四時】ようやく付近は静穏となった。

☆警察側損害

。水崎町巡查派出所 全焼

。霞町巡查部長派出所 一部焼失

同窓ガラス破損 三〇枚

。東田町巡查派出所 一部焼失

☆民間側

。乗用車炎上 三台

。電車破損 五台

☆負傷者 二五六名

。警察官二三二名、消防隊員三名

。一般人二二名(うち報道関係二名)

☆逮捕者 五〇名

【午前七時】地検橋本検事正現場視察

【同八時四〇分】三日午前〇時十分頃西区大野病院へ運びこまれた三十歳ぐらいの男が死んだ。診断書によると、後頭部が創・前頭部打撲・顔面サッカ傷が死因、大阪府警の調べによると、この男は西成署付近の同区甲岸町で重傷を負っていたという。(朝日二朝刊)

【同一〇時】大阪地検にも捜査本部を設置。国家公安委、定例会議で検討。最高検「徹底検挙統廃防止」の方針を発表。

【午後二時】府警本部、管下五十五署の署長を招集、緊急署長会議を開き、六千人動員を含め強硬方針を決める。

《次号》蜂起・流血篇!!